

3. 底魚資源変動調査

3- (1). 底魚漁獲統計調査

志村 健

目的

沖合底魚資源の持続的利用と沖合底びき網漁業の経営安定に資するため、山陰沖における有用資源の資源動向を把握する。

方法

鳥取県の沖合底びき網漁船が所属する地区（賀露、網代、田後、境港）の漁獲月報を集計し、漁獲の変動を把握した。

結果

漁獲量、金額、稼働隻数の年推移を図1に示した。2013年の本県沖合底びき網の漁獲量は6,170トンで、金額は40億3千万円であった。稼働隻数は賀露6隻、網代10隻、田後10隻、および2013年9月より網代から境港所属へ移動した1隻の合計27隻である。

主要魚種別の漁獲量においてソウハチは692トンで前年を上回ったが、ハタハタ1,321トン、アカガレイ1,330トン、マダラ447トンで前年を下回った（表1）。ズワイガニは810トンで雄、雌ともに前年を下回った。

2013年の所属地区別魚種別漁獲割合を図2に示す。

○賀露

漁獲量は1,653tで、その内訳はアカガレイ20%、ハタハタ30%、ソウハチ12%及びズワイガニ11%で、この4魚種が漁獲の約7割を占めていた。また、漁獲金額は9億円であったが、そのうちズワイガニが45%を占め、以下アカガレイ14%、ハタハタ12%、ソウハチ8%となった。

○網代 10隻

漁獲量は1,895tで、アカガレイ31%、ハタハタ21%、ズワイガニ17%で、この3魚種が漁獲の約8割を占めていた。また、総漁獲金額は14.3億円で、そのうち45%はズワイガニで以下、アカガレイ28%、ハタハタ9%となっており、他の2地区に比べ、アカガレイの割合が高かった。

○田後 9隻

漁獲量は2,576tでその内訳はズワイガニ21%、ハタハタ16%、ソウハチ15%であった。その他にアカガレイ、ヒレグロ、エビ類を漁獲しており、その他魚種の占める割合も高く、他の2地区に比べ多様な魚種を漁獲している。また、総漁獲金額は16.6億円で、ズワイガニの割合が49%を占め、他の地区同様、非常に高い割合を占めていた。

○境港 1隻

2013年9月からの稼働であるため、ズワイガニの漁獲が大部分を占めている。

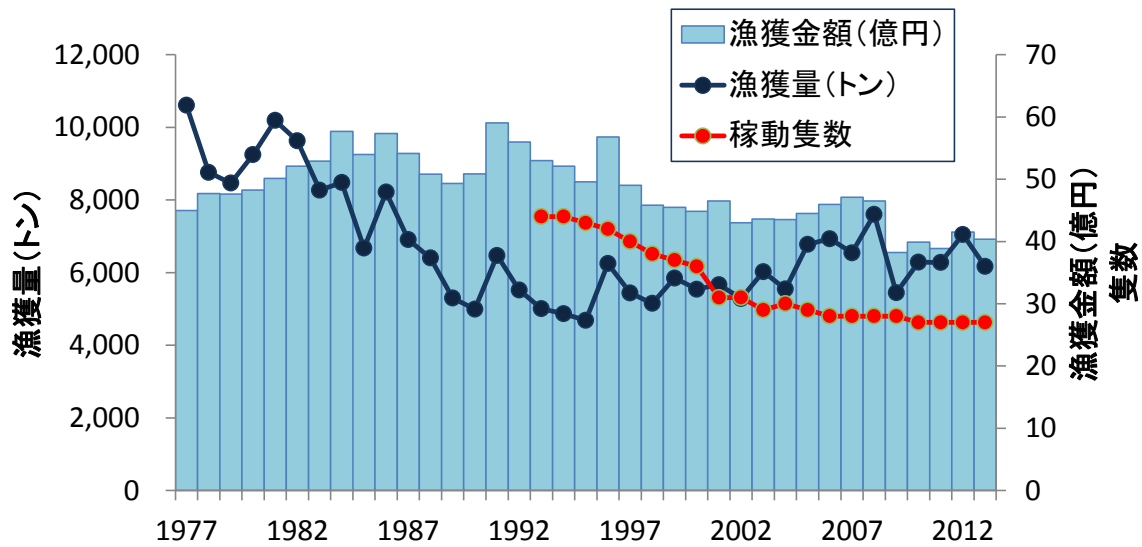


図1 漁獲量、金額、稼働隻数の年推移

表1 沖合底曳網主要魚種の水揚量（暦年）

* 平年は2008～2012年平均、ズワイガニは11～翌年1月の合計値（トン）

	年	ハタハタ	アカガレイ	ソウハチ	マダラ	松葉がに	若松葉	親がに	ズワイ合計
H17	2005年	2,647	769	544	64	230	107	740	1,077
H18	2006年	2,361	895	570	128	276	114	687	1,076
H19	2007年	1,214	1,286	858	122	310	73	719	1,102
H20	2008年	2,880	1,138	878	207	295	62	546	902
H21	2009年	1,218	1,158	485	167	174	65	718	957
H22	2010年	1,043	1,257	731	336	201	55	741	996
H23	2011年	859	1,487	840	515	219	44	718	981
H24	2012年	1,635	1,649	531	588	268	42	594	904
H25	2013年	1,321	1,330	692	447	247	41	522	810
	前年比(%)	81	81	130	76	92	97	88	90
	平年	1,527	1,338	693	363	231	54	663	948
	平年比(%)	87	99	100	123	107	76	79	85

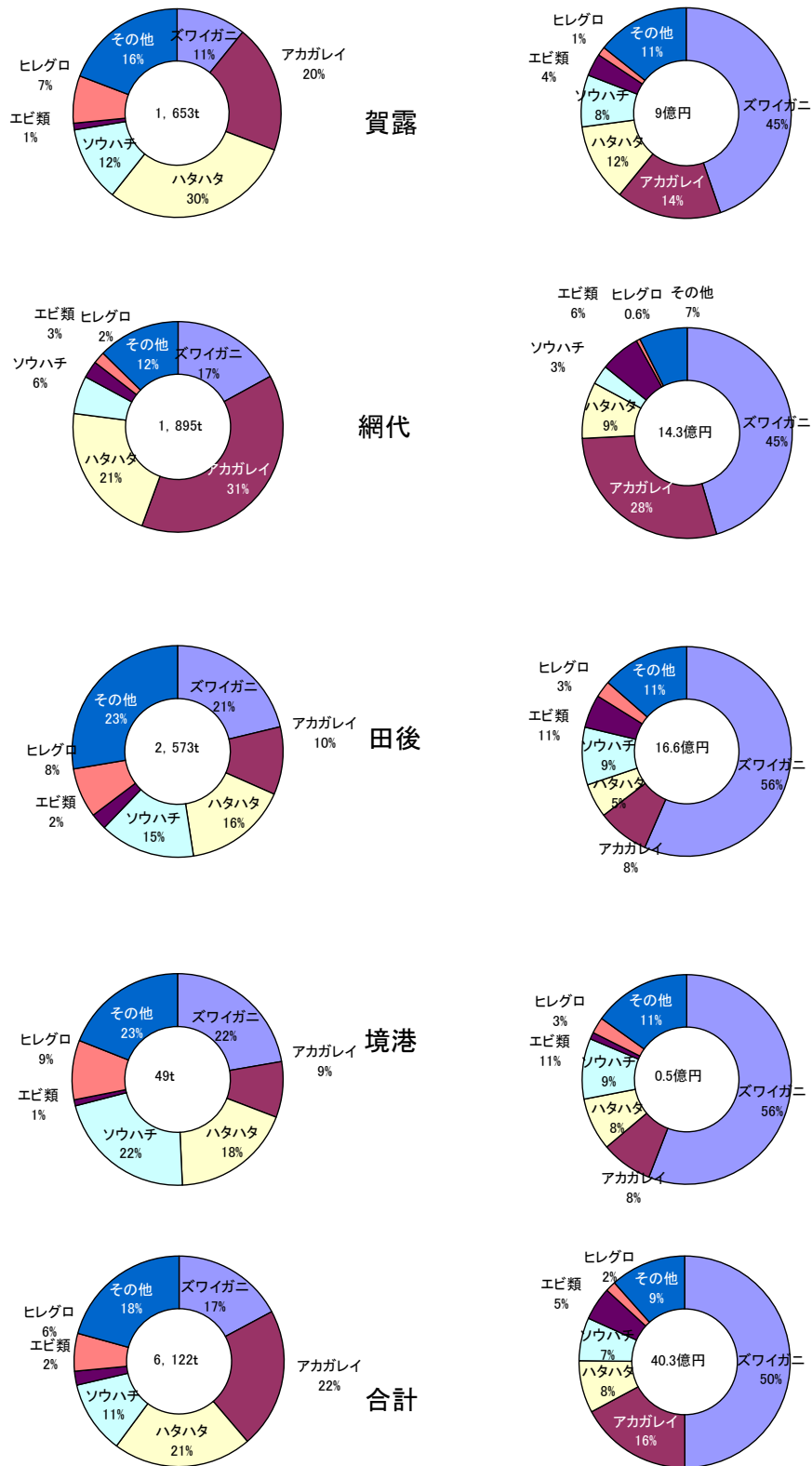


図2 地区別魚種別漁獲量,金額 (2013年)